

環境目標と活動実績

環境取り組みを推進するため、2018年度より、国内NISSHAグループを対象とした「NISSHAグループ環境目標」の目標設定期間を3年から6年に改めました。対象となる事業拠点や部門がそれぞれの環境目標を達成することによって、国内NISSHAグループの環境目標を達成することを目指しており、年度ごとに取り組みの結果を集計・評価し、進捗を管理しています。

2018年度からの新たな環境目標

2018年度から2023年度を適用範囲とするNISSHAグループの環境目標を制定しました。これまでの環境目標は3年間の取り組みでしたが、より長い期間を見据えた取り組みとするため、対象期間を6年間としています。

NISSHAグループ環境目標

【2018年～2023年】

対象：NISSHAグループ国内 ISO14001認証取得範囲のサイト（以下、認証取得範囲のサイトと表記）

1. 汚染の予防

- (1) 環境事故 0件を継続する（環境事故は、工場外にまで影響を及ぼすものを指す）
- (2) 2023年度末までに、ハザード評価リストで著しい環境側面に該当する環境リスクに対してリスク低減対策を行い、環境リスクの「可能性」を一段階以上下げる。

※対策実施後、ハザード評価で重大性が変化しない場合もある。
 ※維持管理項目について、定められた手順により、環境事故の未然防止に努めること。
 ※環境ハザード評価リストのリスクレベルは別途、環境安全衛生マネジメントマニュアルに記載。

2. 気候変動への適応

- (1) 2023年度までにCO₂排出率（原単位）を6%以上削減する
 - (2) CO₂排出率（原単位）で、前年度比1%以上削減する
- 基準：2017年度実績値

※各組織はKPI、品質目標を環境目標に設定してもよい。
 ※省エネ法「特定事業者」に該当する会社は、省エネ法で報告した原単位を基準とする。
 ※排出係数としてデフォルト値（0.555kg-CO₂/kWh）を使用する。
 <取り組みの一例>
 固定分の省エネルギー取り組みとして、省エネ設備・装置の改善を推進する。
 変動分の省エネルギー取り組みとして、生産効率化改善・品質改善・業務改善を推進する。
 空間の有効活用（太陽光発電・屋外緑化・省エネ設計）を推進する。

3. 廃棄物の削減

- (1) 2023年度までの廃棄物発生率（原単位）を6%以上削減する
 - (2) 廃棄物発生率（原単位）を前年度比1%以上削減する
 - (3) ゼロエミッション（再生資源化率99.5%以上）の維持管理に取り組む
 - (4) 廃棄物処理コストリダクションを推進する
- 基準：2017年度実績値

※各組織はKPI、品質目標を環境目標に設定してもよい。
 ※₂排出率原単位と同じ指標でなくてもよい。（生産メーターでなく生産件数でもよい）
 <取り組みの一例>
 二社購買・三社購買の推進および有価物化に取り組む。
 原材料使用の削減などにより、廃棄物の発生を抑制する。

4. 水使用量の削減

生産効率改善および節水により水使用量の削減に取り組む（目標値は認証取得範囲のサイトで設定）

5. 化学物質の削減

認証取得範囲のサイトでの化学物質の使用率低減に取り組む（目標値は認証取得範囲のサイトで設定）

6. 設計段階での環境視点

- (1) 製品設計・開発段階に省エネ・省資源・耐久性・リサイクルなどの視点を取り込む
- (2) 生産工程設計段階で環境に配慮し、生産における環境負荷を低減

<取り組みの一例>

ポジティブリスク評価を実施する。

NISSHA購買品化学物質基準での禁止物質を含有しない。

7. サプライチェーン・バリューチェーンでの環境改善

お客さま要求事項・RBA行動規範に基づく環境改善を推進する（該当サイトのみ）

（注1） NISSHAグループ環境目標の期間は、原則6年とする。

（注2） NISSHAグループ環境目標は、中計など内部環境および外部環境の変化により見直す。

（注3） 各サイトは、NISSHAグループ環境目標から該当する項目を選択して取り組む。

活動実績

1. 汚染の予防

目標：環境事故0件を継続する。（環境事故は、工場外にまで影響を及ぼすものを指す）

2023年度末までに、ハザード評価リストで著しい環境側面に該当する環境リスクに対してリスク低減対策を行い、環境リスクの「可能性」を一段階以上下げる。

評価	○
実績	当社グループの主要な生産拠点であるISO14001認証取得工場は、環境リスクマネジメントを用いた環境リスクの低減に取り組んでいます。これは、リスク低減対策を実施することにより環境事故が起こる可能性を一段階下げる活動です。2018年度は、緊急事態訓練として避難訓練や薬液漏えい訓練などを行いました。また、雨水管理も継続して実施しています。その結果、2018年度の環境事故は0件を継続しました。

2. 気候変動への適応

目標：2023年度までにCO₂排出率（原単位）を6%以上削減する。

CO₂排出率（原単位）で、前年度比 1%以上削減する。

基準：2017年度実績値

評価	×
実績	2018年度より、取り組み項目を従来の「地球温暖化防止」から「気候変動への適応」と改めました。これにより、対象となる事業拠点が気候変動への緩和策や適応策として、より幅広く活動できるようになりました。 NISSHAグループの国内主要拠点は、年1%以上、6年で6%以上の削減を目標として、CO ₂ 排出量の原単位削減に取り組んでいます。具体的な活動として、全ての対象工場における品質活動と連動したエネルギー投入量の低減・効率化や、ナイツック・プレジジョン・アンド・テクノロジーズ（NPT）姫路工場での製造設備の省エネ化、ナイツック工業（NII）甲賀工場でのボイラー制御の改善など、エネルギー投入量の削減につながる設備の改修を行いました。この結果、NISSHA本社、NII甲賀工場、日本写真印刷コミュニケーションズ（NPC）京都工場で目標を達成しましたが、デバイス事業の需要の変動による影響が大きく、その生産を担うNPTは目標未達成となりました。これにより全社の環境目標は未達成となりました。

3. 廃棄物の削減

目標：2023年度までに廃棄物発生率（原単位）を6%以上削減する。
廃棄物発生率（原単位）を前年度比1%以上削減する。
ゼロエミッション（再生資源化率99.5%以上）の維持管理に取り組む。
廃棄物処理コストリダクションを推進する。

基準：2017年度実績値

評価	×
実績	NISSHAグループの国内主要工場で廃棄物発生率の削減に取り組んでおり、年1%以上、6年で6%以上の削減を目標としています。廃棄物発生率は、品質活動による改善で良品率が向上したり、材料投入における効率改善によって材料のムダを削減したりすることで削減されます。全社で品質活動による改善が進みましたが、デバイス事業の需要の変動による影響が大きくNPTは目標未達成となり、これにより全社の環境目標は未達成となりました。一方で、廃棄物のゼロエミッション（再生資源化率99.5%以上）は、達成することができませんでした。

4. 水使用量削減

目標：生産効率改善および節水により水使用量の削減に取り組む。

評価	△
実績	NPT津工場での工業用水使用量、NPT姫路工場での緑地の水使用量などを削減することができました。一方、NPT加賀工場では、2017年度の大型案件の量産の影響により、過去最大の水使用量となりました。今後、水使用量についての管理指標の設定が課題です。

5. 化学物質の削減

目標：認証取得範囲の事業拠点での化学物質の使用率低減に取り組む。

評価	○
実績	ISO14001認証取得工場で、化学物質の使用率低減に取り組みました。NPT姫路工場は、排水処理に使用する薬品の変更によりPRTR対象物質を削減しました。また、NPT津工場は工程で使用する洗浄液の使用量削減、NII甲賀工場は有機溶剤の使用率削減に取り組む、成果をあげました。

6. 設計・開発段階での環境視点

目標：製品設計・開発段階に省エネ・省資源・耐久性・リサイクルなどの視点を取り込む。
生産工程設計段階で環境に配慮し、生産における環境負荷を低減する。

評価	○
実績	産業資材事業部、デバイス事業部でのポジティブリスク評価の取り組みを通して、製品設計段階で環境配慮設計が行われています。NISSHAエフアイエス（FIS）の、ハンディーガスクロの開発、ISO26262準拠の水素ディテクターの開発などが環境配慮設計に該当し、同社の事業活動につながっています。NPTでは、化学物質の管理について定められた当社基準を順守した生産工程を設計することで、環境負荷の低減や安全衛生に配慮した工程が設計されています。

7. サプライチェーンでの環境改善

目標：お客さま要求事項・RBA行動規範に基づく環境改善を推進する。

評価	○
実績	事業部購買部門を中心に、CSR調査票の配付や現地監査などを通じて、サプライチェーンでの環境負荷の調査と改善に努めています。